

CLAIRの活用による対馬市の国際交流

長崎県対馬市観光物産推進本部

対馬のご紹介

『始めて一海を渡ること千余里で対馬国に至る。居る所絶島、方四百里ばかり。土地は山陰しく、森林多し、道路は禽鹿きんろくの径の如し。千余戸有り、良田なく、海物を食して自活す。船に乗りて南北しんぺきに市羅す。』

3世紀の中国の歴史書「魏志東夷伝倭人伝（魏志倭人伝）」に紹介された対馬の姿で、この文章は、わずか64文字でありながら当時の対馬を的確に捉えており、現在の対馬の姿を現すのにも最適な表現ともいえます。

対馬は、九州と朝鮮半島の間に浮かぶ島で、九州福岡まで海路138kmに対し、隣の国韓国までは49.5kmと朝鮮半島に近いことから、古来より大陸と日本を結ぶ架け橋的役割を果たし、大陸や半島の文化・文物が朝鮮半島を経由し、「対馬」から日本本土へと伝えられてきました。

島は、南北82km、東西18kmの細長い島で、海岸は複雑な入り江が多く海岸の延長は915kmにも及びます。中央部の浅茅湾は、大小いくつもの入り江と島々が複雑に入り組んだりアス式海岸で「壱岐・対馬国定公園」に指定されています。

また、島が誕生する前は、大陸と陸続きだったため、国の天然記念物であるツシマヤマネコをはじめ、対馬でしか見ることができない大陸系の動植物が数多く生息しています。

島の約90%が山林で、急峻な山々が連なり海岸まで続いているため平地に乏しく、四方を豊かな海に囲まれています。このような環境にあるため、産業としては、林業や椎茸栽培、漁業においては、一本釣り、真珠養殖が盛んに行われ、最近では、

クロマグロ養殖なども行われております。

対馬市の概要

市制施行	2004年3月1日 (厳原町、美津島町、豊玉町、峰町、上県町、上対馬町が合併)
人 口	34,842人
世 帯 数	15,411戸
面 積	708.81km ²

対馬市の韓国との交流

戦前、釜山には対馬の人が住んだり、日常の買い物・映画鑑賞に行くなど、人的交流、物資の交流も盛んに行われ古くからの親しい隣人としての関係を築いていました。

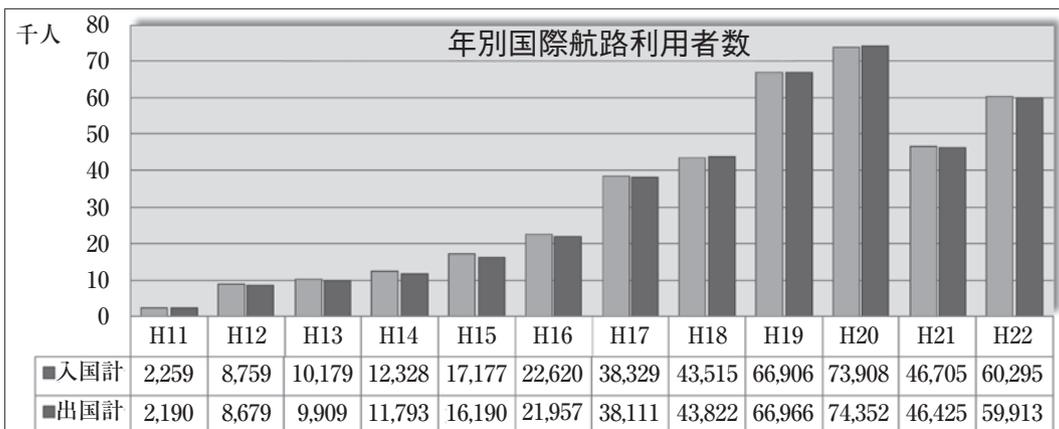
これを受け釜山広域市の影島区との間で1986年に姉妹島縁組を締結、相互訪問など友好親善を進めて来ました。1994年には行政交流に関する協定を結び、翌年から双方の行政の取り組み事例の紹介や意見交換を行う「行政交流セミナー」を毎年実施しています。

また、釜山広域市蔚州郡との間においては、韓国の外交偉人「李藝（イ・イエ）」を通じた記念碑等文化遺産の保存・継承、文化交流協力を目的に、2005年に「友好協力了解書」を締結し、追慕祭礼の開催協力、双方のイベントへの相互訪問などを行っています。

その他、中学校、高等学校の姉妹縁組による交流や民間サイドにおいても文化・スポーツを通じての交流、ホームステイ事業等が盛んに行われています。

対馬の夏は韓国との交流に関するイベントが集中しており、日韓のランナーによる「国境マラソンIN対馬（7月上旬）」、朝鮮通信使行列再現を

区分	運行会社使用機材	運行区間	運航日(曜日)	所要時間
航路	大亜高速海運 高速船：シーフラワー ドリームフラワー	厳原港・釜山港	月・金・土	180分
		比田勝港・釜山港	日・水	80分
	JR九州高速船株式会社 ジェットフォイル：ビートル	比田勝港・釜山港	毎日	70分
	未来高速株式会社 ジェットフォイル：コピー	厳原港・釜山港	水曜日以外	105分
空路	株式会社コリアエクスプレスエア ビーチクラフト1900D	対馬空港・金浦空港	日・金	70分
		対馬空港・金海空港	火・木以外	30分



メインイベントとした対馬最大のイベント「厳原港まつり対馬アラン祭(8月上旬)」、日韓のミュージシャンによる合同音楽祭「対馬ちんぐ音楽祭(8月下旬)」が行われ、日本国内や韓国からたくさんの方々々が来島されております。

1999年には、高速船による釜山・対馬間の国際航路が開設され韓国からの旅行者が大幅に増加し、2009年には、韓国・対馬間のプログラムチャーターによる国際空路の開設、更には2011年新たに2社の国際航路参入があり宿泊施設の不足など受入態勢の整備が急務となっています。

国際交流員(CIR)の活躍

対馬では、韓国との国際交流事業を推進するため1991年から国際交流員を配置しています。

当初は、町の単独予算で韓国より直接雇用し、韓国語講座の開催等を行っていましたが、韓国との交流が盛んになるにつれ、国際交流イベントなどの事業が盛んに行われるようになり、高度な日本語能力を持つ人材が必要となり、1996年からは、JETプログラムによる国際交流員(CIR)を受け入れ、これまでに8人を配置していただきました。

いずれも優秀な人材で、主な業務としては、市民を対象とした韓国語講座、各事業所、学校(幼稚園、小学校、中学校、高等学校)の要望による出前講座を実施しています。

市民を対象とした韓国語講座では、入門コース、初級コース、中級コースを設け、ハングルの読み書き、会話の練習をはじめ、日本と韓国の習慣の違いを懇切丁寧に教えていただいています。

事業所を対象とした講座では、韓国人客と接する機会の多い事業所からの要望が多く、簡単な会話の練習、習慣の違いによるトラブルの防止策などそれぞれの事業所の要望に添った内容で実施しています。

学校等での講座は、韓国の遊びの紹介、あいさつ、修学旅行前の事前学習など年齢、学年等に応じた講座内容となっており、姉妹縁組校との交流事業の調整、通訳などの手助けを行っています。

各文化団体、スポーツ団体等による国際交流事業に対しても、日程調整や文書の翻訳などの事前調整から事業実施時の通訳までを行っています。

行政によるイベントや交流事業の調整や翻訳・通訳の他、市報による韓国文化や習慣の紹介など

市民に対する韓国への理解度向上にも活躍してもらっています。

国際交流員その後の活躍

冒頭の魏志倭人伝の一節に「……船に乗りて南北に市糴^{してき}す」とありますが、現代の対馬においても南は九州本土福岡に福岡事務所を、北は韓国釜山に釜山事務所を情報発信基地として設置し、国内交流・国際交流の推進・拡大を図っているところではあります。

釜山事務所は、江戸時代の唯一の在外公館「草梁倭館」があった龍頭山公園の麓に事務所を構え、韓国国内での対馬の情報発信基地として、また、対馬と韓国の交流事業の調整窓口として重要な役割を果たしています。

釜山事務所には、2名の現地雇用職員がいますが、副所長は、JETプログラムにより配置された初代の国際交流員で、2003年の開設当初から勤務していただいております、(対馬人より)対馬のことが詳しく、韓国国内の情勢なども随時報告する等対馬の国際交流には欠かせない存在となっています。

その他の交流員については、対馬勤務を終え、それぞれの目標に向かって事業を始められたり、会社に入られたりされていますが、今でも韓国の情報を提供いただいたり、ドラマの撮影を誘致していただいたりもしています。

なかには、美人で優秀なことから対馬勤務後、日本人(しかも対馬の人ではなく本土の方)と結婚された交流員もいますが、対馬と韓国の交流に活躍していただこうとしている矢先に韓国を離れ日本に嫁がれ、喜ばしいことながら対馬にとっては大きな痛手となっています。

朝鮮通信使

朝鮮通信使は、江戸時代に徳川幕府の踏襲慶賀の目的で朝鮮王朝から派遣された大文化使節団で、1607年から1811年までの約200年間に12回来日しています。

漢陽(ソウル)を出発した使節団は、釜山から船に乗り、対馬を経由して瀬戸内海を通り江戸(東

京)までを5~8か月かけて往復しました。

通信使が通った江戸までの行程には、今でも様々な史跡や書・伝承文化などが伝えられており、韓流ブームの現在「朝鮮通信使」は全国的にも脚光を浴びるようになってきました。

対馬では、「朝鮮通信使」の意義や重要性に早くから着目し、1978年から8月開催の「厳原港まつり対馬アリラン祭」で朝鮮通信使行列の再現を行い、更には通信使にゆかりのある日本国内の自治体や団体に呼びかけ、全国組織である「朝鮮通信使縁地連絡協議会(略称:縁地連)」を1995年に立ち上げ朝鮮通信使の啓発活動を行っています。

第18回朝鮮通信使ゆかりのまち 全国交流会対馬大会

1811年の最後の朝鮮通信使は、江戸までは行かず江戸幕府から要人が対馬に派遣され、対馬の地で国書の交換式が執り行われました。これを、「対馬易地聘礼^{えきちへいれい}」といいます。

対馬では、最後の朝鮮通信使来日(対馬易地聘礼^{えきちへいれい})200周年を記念し、2011年11月5日、6日に、自治体国際化協会の「地域国際化施策支援特別対策事業」の助成を受け、第18回朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会対馬大会を開催しました。

大会は、対馬市交流センターをメイン会場とし、日本国内から朝鮮通信使縁地連絡協議会の関係者やご来賓140名、韓国からは国際諮問大使、釜山文化財団、舞踊団等約80名のご参加をいただきました。

開会行事では、主催の実行委員長、地元対馬市長の挨拶等に続き、日韓文化交流功労者への感謝状の贈呈を行いました。

続いて、本イベントの目玉の一つでもある、対馬の市民で構成する市民劇団「漁火^{いさりび}」によるミュージカル「対馬物語」の公演が行われました。このミュージカルは、ジェームス三木さんの脚本、わらび座による演出協力によるもので、江戸時代、豊臣秀吉の朝鮮出兵により国交が断絶され窮地に追い込まれた対馬藩が、徳川幕府の命により国交回復に向け朝鮮側と交渉を重ね朝鮮通信使を迎えるまでの苦悩を当時の対馬藩主宗義智とその妻マリ



ミュージカル「対馬物語」



ペギンセ舞踊団



朝鮮通信使行列



韓国ペクヤン高校（宮中吹打隊）

ア（小西行長の娘）に焦点を当てたものです。

会場は750席の固定席がありますが、立ち見客が出る程の超満員で、会場に入れない人も出る程の盛況ぶりでした。

午後は、「文化八年最後の朝鮮通信使」と題し、地元文化財保護審議会委員の斎藤弘征氏による基調公演のあと、京都造形芸術大学客員教授仲尾宏氏をコーディネーターに迎え、財部能成対馬市長、韓国釜慶大学史学科教授朴花珍（パク・ファジン）氏、基調公演をいただいた斎藤弘征氏をパネリストに「朝鮮通信使の200年から何を学ぶか」をテーマにシンポジウムを行いました。

また、韓国からは韓国の釜山文化財団のご協力による国楽専門団体「TARO」の公演、実行委員会が招請した韓国舞踊専門家により結成された「ペギンセ舞踊団」による韓国舞踊の披露もあり、閉会行事では、対馬高等学校吹奏楽部による韓国の唱歌や縁地連のテーマソング「AGAIN」の演奏が行われました。

2日目は、あいにくの雨の中、朝鮮通信使の史跡等を巡るフィールドワークを実施しました。午後の朝鮮通信使行列の再現パレードでは、その時間だけ雨が止むという奇跡が起こり、地元事業所の方々や対馬高等学校吹奏楽部、更には韓国のペクヤン高等学校「宮中吹打隊」の参加をいただき240名規模の行列再現を行いました。

本行事の締めくくりで初めての試みでもある「対馬易地聘礼儀式（国書交換式）の再現」では、古文書等に残された記録を元にその様子を再現し、当時の国書交換式を厳粛に再現しました。

またメイン会場周辺では、「朝鮮通信使特別史料展」、朝鮮通信使ゆかりのまちによる「縁地観光PR展」、「絵画コンクール」、「朝鮮通信使写真展」等も開催し、まさに対馬をあげての一大イベント

となりました。

閉会行事では、韓国の釜山文化財団代表理事南松祐（ナム・ソンウ）様より、来年度の朝鮮通信使ゆかりのまち全国交流会を釜山で開催するとのこと案内がありました。

釜山では、毎年5月に龍頭山公園一帯で「朝鮮通信使祭り」を開催しており、朝鮮通信使のパレードはもちろん、日韓の芸能団の公演等が大規模に開催されますので皆様のお越しをお待ちしております。



対馬易地聘礼（国書交換）儀式

今後の展望

朝鮮通信使の来日により、日本と韓国の間においては、交易のみならず芸術・学問等の交流も盛んに行われました。また、朝鮮通信使との交流期間の約200年もの間、両国間に争いごとはなく、これは世界的に見ても類を見ない誇るべき歴史であり、先人たちが残した貴重な遺産として、今日の日韓友好交流の礎となりました。

対馬市では、「朝鮮通信使」の精神でもある「誠信交隣」（互いに欺かず、争わず、真実をもっての交わり）を基本理念に韓国との交流を推進しているところです。

今回は、CIRと地域国際化施策支援特別対策事業の2点に絞り紹介をさせていただきましたが、対馬市では、これまでの人的交流に加え、貿易などの経済交流、更には東アジアとの架け橋を更に深化するため中国との人的・経済的交流を推進しようとしているところで、CLAIRの活用により更なる国際化の推進を図りたいと思います。